

2010年度 一橋大学 前期 世界史B

教皇から神聖ローマ皇帝冠を受けたオットー1世は、大諸侯抑圧のため聖職者叙任権の掌握を図る帝国教会政策を実施し、中央集権化を図った。荘園領主として世俗権力の影響を受けた教会では腐敗・墮落が進み、クリュニエ修道院を中心に刷新運動が展開された。その中で教皇グレゴリウス7世は叙任権闘争を行い、皇帝ハインリヒ4世を破門しカノッサで屈服させた。闘争は続いたが、ヴォルムス協約で叙任権は教皇に、領地承認権は皇帝に認めるという妥協が成立、世俗権力に対する教会権力の優越が確定した。この過程でドイツでは政治的分裂が固定化した。教会は西欧で普遍的な権威となり、独自の教会法と裁判権を行使し「神の平和」運動を推進した。農民に対してはミサや冠婚葬祭を通じて教化にあたり、また十分の一税を取り立てた。こうして教会は秩序の形成に関わり、教皇を頂点とし、村落の司祭を末端とする位階制が確立され、13世紀初めに教皇権は頂点に達した。

(400字)

問1

1 大陸横断鉄道。エジプトで仏のレセップスが建設を指導したスエズ運河が開通し，地中海と紅海が結ばれた。

(50字)

問2

2 仏革命以降，国民国家形成の過程で女性参政権実現が叫ばれた。クリミア戦争でナイティンゲールが従軍看護婦として活躍するなど，一部の女性が社会進出したが参政権は実現しなかった。第一次世界大戦が長期化し，国家の生産力が勝敗を左右する総力戦に突入すると，従来家庭で良妻賢母たることを求められていた女性が工場労働に従事するようになった。総力戦で高揚した社会主義運動と女性運動が結び付き，ロシア革命後ソヴィエト政権は女性参政権を付与した。これらの運動は資本主義諸国でも圧力となり，英ではロイド＝ジョージ内閣の第4次選挙法改正で一部の女性に参政権が付与され，第5次改正では男女普通選挙が実現した。また独では敗戦後のヴァイマル憲法で，米ではウィルソン政権下で女性参政権が付与されるなど，女性が国民国家に組み込まれた。

(350字)

問1

A インドネシア B 1955 C バンドン 領土主権の尊重，内政不干渉，平和共存などの平和五原則を拡大した平和十原則を採択。反帝国主義・反植民地主義の理念を打ち出し，非同盟運動やアフリカの独立運動などに影響を与えた。

(100字)

問2

2 周恩来。満州事変後，侵略を進める日本に対し，1935年，長征途上の中国共産党は八・一宣言を発して，内戦の停止と抗日民族統一戦線の結成を訴えた。これに共鳴した張学良は36年，督戦に西安を訪れた蒋介石を監禁し，内戦停止・一致抗日を迫った。共産党の周恩来の説得により蒋介石が抗日に同意し，政府の改組を表明した。

(150字)

問3

3 ネルー。国民会議派。ボンベイ大会で地主や知識人が親英組織として結成。その後急進化し，ティラクが主導するカルカッタ大会でスワラージなど4綱領を採択。戦間期，ガンディーが非暴力・不服従運動を指導し，ラホール大会はネルーの主導で完全独立を採択。ムスリム連盟との対立激化により，パキスタンとは分離独立した。

(150字)